

統計の眼

アメリカにおける異常気象と穀物需給

現在、アメリカでは広い地域が旱魃に見舞われている。海洋大気局(NOAA)によると、昨年の夏(六月～八月)は観測史上三番目の高温を記録し、全土の半分近くが旱魃の影響を受けた。

飼料の主原料で、アメリカが圧倒的な生産量を誇っているトウモロコシは、コーンベルト東部を中心に長雨の影響で作付けが遅れた上、広い範囲で高温・乾燥の影響を受けたことから、作付面積こそ昨年よりは増えているものの、単収の減少が大きいため生産量は九〇億ブッシェルを割り込むものと予測されている(図)。

もっとも、一九九三年や九五年の減少幅に比べるとまだ緩やかなものである。価格についても同様である。たしかにここ二年間ほど一ブッシェル当たり一ドルで推移していた価格が、減産傾向が鮮明となった夏以降に二ドルを越え三ドル近くまで上昇してはいるが、このような価格の上昇についても五ドルを超えた九五年ほどの高騰ではない。

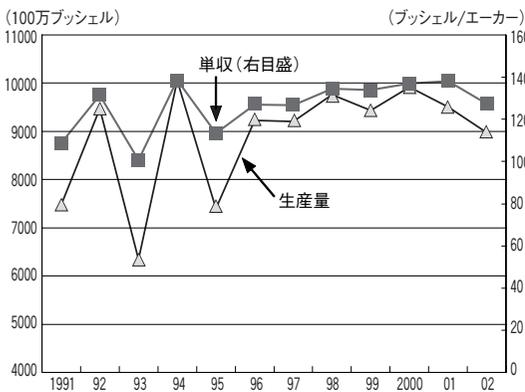
ただし、比較的降水量の少ない大平原地帯が主産地である小麦の生産量は、トウモロコシや大豆以上に生産量の落ち込みが激しい。農務省の統計によると、一九九〇年代に入つて二一～二三億ブッシェルで推移していた生産量は、二〇〇二年には一六億ブッシェルにまで減少するものとみられている。

これは、一九七二年以来の低水準である。

現段階でもっとも懸念されているのが、遺伝子非組み換えトウモロコシと大豆の供給不足である。通常、トウモロコシの加工業者は食品用の遺伝子非組み換え農産物を確保するため生産農家と栽培契約を結んでいる。特に質の高いトウモロコシ生産で有名なインディアナ州やイリノイ州南部、ミズーリ州東部などで行われている。収穫の最盛期をすぎ、分別流通を行う非組み換えトウモロコシの供給不足は目立つていないものの、供給が先細りになるにつれ遺伝子非組み換え農産物に対するプレミアムが上昇する可能性は否定できない。

(大江徹男)

アメリカのトウモロコシの生産量と単収の推移



資料：アメリカ農務省